作文指導事典

作文指導事典

樺島忠夫
中西一弘 編

東京堂出版

編者略歴

樺島忠夫

大阪府出身。京都大学卒。現在、京都府立大学教授。編著書に「情報創造」「文章工学」「日本のことば」「日本の文字」「文章作法事典」「文章構成法」など。

現住所—枚方市山之上西町14—25

中西一弘

神戸市出身。広島大学卒。現在、大阪教育大学教授。編著書に「世界の作文教育」(共著)「作文指導の方法」「国語科教育の理論と展開」など。

現住所—大和郡山市小泉町松風台165

作文指導事典　定価三四〇〇円

昭和五五年九月一五日　初版印刷
昭和五五年九月二五日　初版発行

編者　樺島忠夫
　　中西一弘
発行者　岩出貞夫
印刷所　凸版印刷株式会社
製本所　凸版製本株式会社

発行所　株式会社　東京堂出版
東京都千代田区神田錦町三ノ七（〒一〇一）
電話　東京　三二三一三七四一　振替　東京　三一七七

1580-155215-5164　Tadao Kabashima 1980
©Kazuhiro Nakanishi

はじめに

すばらしい歌声やみごとな絵画に出会ったとき、わたしたちはどんな思いをするでしょうか。うっとりと魅惑されるとともに、あれほどでなくてもいい、せめて少しでも歌えたら描けたら、という思いが切にいたします。文章についても同様です。いい文章が書ければ、とだれもが願いつづけています。歌うこと描くことが本能であるように、書くことも本能の一つですから。

でも、口を動かせば歌を口ずさむようには、らくに文章を書くことはできないと思われています。紙と筆記用具さえあればできるといっても……。書くことは、本来、むずかしい作業なのでしょうか。

ところが、文字を知り始めた子どもは、強制しなければ、喜んで文字を並べ、文を綴っています。家人のまねをして手紙まで書くほどです。テニヲハを落したり、長音表記はまちがえたり、鏡文字で書いたりしますが、けっこう楽しんで書くものです。そこで、そもそものはじめから作文が嫌いだとは思えません。小学校にはいっても、一年生の間は、単純な学習しかしないところからでしょうか、作文嫌いの様子はあまりみられません。あっても、二年生以上で、それも成人とくらべて、比較にならないほどわずかです。

それが不思議にも、三年四年と学年が進むにつれて、作文嫌いが芽生えてきます。高学年になると、原稿用紙をみただけで、変な嘆声をあげるようになります。もう拒絶反応を示しているといっていい状態にまでいたります。なぜでしょう。

作文の学習が徐々に本格化するにしたがって作文嫌いが増えるのは、学習の途中に越えることのできない障害があるとしか考えられません。それも一つや二つの障害だけでなく、数多くの障害が重なり、悪いことにはそれらの多くがいつまでも立ちはだかったままになっているからでしょう。絶望と思い込むほどの障害の山が、学年が進むにつれて、ますます高くなっていくからでしょう。きっと。

作文指導の最大の目標は、この障害を一つひとつ取り除くことにあります。この『作文指導事典』も、そこをねらって編集しました。

つまり、すでに作文嫌いになっている児童に一歩一歩、作文の魅力を体得させ、苦労もあるが楽しみもあるといった、新しい体験をえさせてから、より高度な、質の高い文章表現ができるように、一段一段向上していく諸方法を示したものです。したがって、作文嫌いの児童を多くかかえている先生には、はじめから、順次目を通していただけたらと思っています。とくに、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ章の具体的事例と着眼点が有効でしょう。

すでに、作文指導をおこなっておられる先生には、Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ章を中心に利用していただけたらと思っています。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

学年の全体計画を立案するには、X・XI・XII章が役立つでしょう。

特別な悩みについては、IX章に触れております。

作文指導の方法については、すでに歴史があり、対立する見解も多く、統一されているとはいいがたい状況です。といっても、児童に作文能力をつけ、人間として立派になってもらいたいという願いに変りはありません。児童がまず作文嫌いにならないように、作文が少しずつでも好きになるように、そのうえ、質の高い文章が書けるように、とはだれもがいだいている願望です。この願望をはたすために、児童にとって有益な方法は、すべて、生かしていかなければなりません。対立する諸方法を統一しているとはいえませんが、できるかぎり斉合的に調和的に述べてみたいと考えて編集・執筆いたしました。

事典として、体系的に構成しましたが、目次を詳しくしましたので、それを手がかりとして活用しやすくしております。一か所だけでなく、広く見渡して、同じ種類の項目にあたると、それだけ多種多様な活用法を知ることができます。

最後に、本辞典の企画・編集・作製の過程において東京堂出版の西哲生、松林孝至、池畑成功の諸氏にお世話になりました。記して感謝いたします。

昭和五五年八月八日

中西一弘

目　次

Ⅰ　生きた作文指導を求めて

なぜ作文指導がいるのか
—意義と課題—……3

児童の作文能力の発達
—指導の重点目標を求めて—……5

作文指導の体系……7
書くことの日常化　8
基本的な指導過程　8
表現形態の段階的指導　9
作文技能のとりたて指導　10
国語科・全教科の統合として　10

作文の評価
—楽しく書かせるために—……11
まず、ほめること　11
一斉学習では重点評価も　12
個人カルテの作製　12
作品の公表と評価の公表　13

Ⅱ　書くことの日常化の試み

はじめに……14
書く抵抗をなくす　14
書くことを日常生活の中に　16

国語科の諸領域において……18
話すこと、聞くこと　19
まず聞く力を／話す力
読むこと（読解）　22
読むことと書くことの関連／書くことの効用／書きこみ・書き出し／初発の感想・読みの課題づくり／読み深める・終わりの感想

全教科において……33
体育　33
音楽　34
図工　34
家庭　34
理科　35
社会　36
算数　36

学校生活において……36
学習態度をつくっていく中で　36
魅力的な書く場を　37

名前探しゲーム／書きことばのしりとり遊び／主述のカルタ取り／連想ゲーム／風船書きごっこ／名なしゲーム／ものを見て感じることを捉える／ことばを見て感じることを捉える／書き出し提示法／鉛筆おしゃべり法
毎日の生活の中で　40
家庭生活において……41
なんでも題材に　41
子どもと教師の結びつきを求めて　43
みんなのものに　44
Ⅲ　短作文の試み
―作文学習の導入として―
はじめに……46
一語作文の練習……47
題目（名前）をつける　47
適切な一語を求めて　49
言葉を拡げる　51
連想による言葉ならべ　51
一文作文の練習……52
語をもとにして一文を　52
一文完結　53
文末表現の練習として　53
一文日記　53
文型の指導として　54
二文作文の練習……55
一文を与えて、それに一文を加える　56
第二文を与えて、第一文を作らせる　56
三文作文の練習……57
文章の構成・組み立て　57
正・反・合の展開　57
四文作文の練習……58
字数制限作文……59
えんぴつ対談……60
「感想メモ」の指導……62
「ふき出し」……64
作文スケッチ……65
「写真」を見て書く指導……68
「テレビ」を見て書く指導……70
「マンガ」を見て書く指導……72
Ⅳ　作文の基礎能力育成について
作文の基礎能力の育成……73
作文の基礎能力　73
基礎能力育成の必要性　74
実態の見きわめ　75

基礎能力の育成 76
視写……79
視写ということ 79
視写による基礎能力の育成 81
視写の効用／「気付く」から「広がる」へ
視写の方法 83
初期の段階の視写／言語事項要素を伸ばす視写／作文力要素を伸ばす視写／読みとり学習と視写
聴写……92
聴写について 92
聴写の方法 93
暗写……95
暗写ということ 96
暗写の方法 96
速書……97
速書ということ 97
速書の方法 98
入換え、置き換え、変形練習……99
必要性 99
入れ換え法 100
置き換え法 101
変形練習 103

V 作文の基本的な指導過程

題材指導……105
題材指導の意義・目的 105
題材指導の二つの側面 107
日常的継続的指導／書く直前の取材・選材の指導
題材を広げるための指導 125
学級日記の利用／感想・意見をもたせる／題材表を作る／題材を形式的にとらえない
題材を深めるための指導 133
低学年の取材指導 137
中学年の取材指導 139
高学年の取材指導 144
体育会のこと、遠足のこと 147
主題（テーマ）指導……149
主題とは 149
作文における主題意識の重要性 149
「主題・要旨」能力の系統 150
主題指導とは 151
主題指導の実際 153
一年生／二年生／三年生／四年生／五年生／六年生
構成・構想指導……166
構成・構想とは 166

作文における「構成」と「構想」 166
作文における構想指導の重要性 167
「構想」能力の系統 167
構想指導における二つの側面からの配慮 168
構想指導の実際 169
一年生／二年生／三年生／四年生／五年生／六年生
記述指導……181
記述とは 181
記述指導の意義 182
「記述」能力の系統 183
その他の指導事項 185
書き出しの工夫／表現を効果づける工夫
記述指導の実際 186
指導の「時」／指導の方法
推敲指導……189
推敲とは 189
各過程での推敲 189
各学年別指導事項―指導要領― 189
推敲指導の内容 189
推敲指導の方法―内容的推敲― 190
読み返す習慣／原稿用紙のマスの使い方／原稿用紙の使い方／書き出しの工夫／文題の工夫／書きたりなさ、書きすぎ
推敲指導の方法―形式的推敲― 195
誤りの種類／その他の留意点
批正の方法……198
批正とは 198
自己批正／共同批正／相互批正
赤ペン 204
作文の活用法……206
処理と活用 206
指導目標／作品の活用／作品朗読会／教材として／相互批評／掲示／文集／投稿・応募／書く目的に即した活用
評価の方法 215
評価／教師の側からの評価の観点／記述前の評価の観点／記述中の評価の観点／記述後の評価の観点／表現の工夫を評価する

Ⅵ　表現形態の段階的指導

作文時間特設の意味とその内容……224
取り立て指導の留意点 225
取り立て指導のできる基本技能
生活文の指導……227
会話・様子のスケッチ／鑑賞指導の必要性／内容とことばの結合／会話のスケッチ／様子のスケッチ

描写文の指導……232
描写力は観察力から／興味関心を耕す
説明文の指導……237
意見文・議論文の指導……243
古川さんのこと／筋道を立てた表現を求めて／生活感想から生活意見へ／生きた場の設定

Ⅶ　作文の各種技能の指導

書き出しと書きおさめ……251
型を示す／型を示す指導の実際／書き出しの例文／読み取り学習での書き出し例／感想文の書き出し例／書きおさめ
会話の文と地の文……259
えんぴつ対談／会話だけの日記
効果的な会話文の生かし方　267
描写文の技能……267
絵・写真・テープレコーダーを使って　268
すぐれた文例によって　270
視覚表現・聴覚表現の技能……271
豊かな視覚表現を求めて　271
写真・絵を使って／文章の実例によって
鋭い聴覚表現を求めて　274
文の長短と文末表現……276
文の長さに注意する　276
文の止め方を工夫する　276

Ⅷ　文種別指導の方法

日記の指導……279
分類　279
日記指導の意義　280
指導法　280
絵日記／生活日記／評語のつけ方／学級日記／読書日記
手紙の指導……287
手紙文　287
手紙文の三要点　287
低学年の指導　287
家庭連絡帳の活用／せんせいあのね／仲よし遠足／春の運動会／七夕集会／郵便ごっこ／その他
中学年の指導　289
手紙を書こう／夏休みの課題
高学年の指導　296
多様な手紙を／家庭からも手紙を／礼状を出す／その他の留意点
新聞の指導……297
意義とねらい　297

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

学級新聞
学校新聞 300298
壁新聞 300
編集上の留意点 301
取材／学校／学級／紙／編集会議／原稿読み／見出し／わりつけ／新聞名／記号類（一、くぎり記号、二、かっこ類、三、つなぎ符号、四、リーダー類、五、しるし物、六、けい〈罫〉類、七、やや特殊なもの）／特集号・号外
表現面の留意点 306
特色／表記／文章／改行
観察文の指導……308
観察文とは 308
指導の意義
題材例 309
指導上の留意点 310
メモ練習／指導実践例
記録・報告文の指導……321
記録文・報告文とは 321
記録文／報告文／記録文・報告文の特色
指導 321
メモの利用／書く前の指導／書く時の指導
教材例と指導例 325
書くことのない児童 332
作品例 332
読書感想文の指導……337
読書記録を 337
感想をもつ 337
書きながら読む
感想文を書く 339
書き加え法／主人公や作者になりきる法／手紙法／話し合って書く法／一語法
読書感想文を生かす 344
想像作文・物語作文の指導……345
意義 345
指導法 345
つづき話／省略部分を書く／視点を変える／絵を見て／リレー童話／切抜人形を使って／社会科や理科の学習から／劇をつくる／物語をつくる／絵をかいて（紙芝居）
こんな文章を書くときは……351
初夢、初うそ大会／新ことわざづくり／昔話を素材に／国語辞典を使って／ふしぎなめがね／SFの読み聞かせ

Ⅸ　作文の障害をいかに克服するか

表記上に誤りのある児童の指導……353
「は―わ」「へ―え」「を―お」と書き誤る児童の指導 356
「こおり―こうり」「とおる―とうる」など、オ列長音を書き誤る児童の指導
句読点を打ち誤る児童の指導 357356
そして・それから作文の指導……359
段落構成の指導……363
段落構成の基準
作文を利用した段落構成の指導 365
平板な作文の指導……368
書くことがない―長く書けない児童の指導……375
自閉症の児童を指導して……380
はじめに 380
どんどん おしゃべりしよう 380
どんどん遊ぼう 381
日記が書けた 381
わたし わからないのさか上がりができた！ 383382
わたしは、ともだちがいない 384
わたしのすきなことをしてくれない
おともだちとぼうるあそびをするのがすき 384
もう、こちょこちょいたずらはしていりません 385
おともだち、だいじにせなあかんやろ 386
A子のために 387
生活をより豊かに 389

X 教科書（作文）教材の生かし方

作文の教材とは……392
教科書（作文）教材の生かし方実例……394
いわゆる作文教材のパターン
作文教材の生かし方 402
読解教材の作文指導への生かし方 403
市販の文集・作品の生かし方……406
自分の学級の作品の生かし方……410

XI 作文の指導計画をいかに立てるか

指導計画作成上の基本的な考え方……414
年間計画の立て方……415
計画を立てるための準備／子どもの実態をしっかり把握する／指導の目標をはっきりさせる／臨機応変に指導できる余裕／計画の立案、題材構成の工夫
計画の立て方と留意点 417
三本立てのカリキュラム／具体的なカリキュラムの立て方
単元の設定 419

カリキュラムの実際 419
教科書教材の発展として設定された単元例／書きなれるための練習ができる単元例／学校行事、季節、地域の特性を生かした単元例／単元例（その一）／単元例（その二）／スキル学習のできる単元例
指導計画の例 433
神戸市の例／滋賀県の例／小田原市山王小の例

Ⅻ　作文指導の計画と実践

わが校における作文技能の指導
—和歌山市立城北小学校の場合—……451
作文指導の現状と今日的課題 451
経験主義的作文指導の反省／学び方学習強化の必要性
作文指導の科学化 452
基本的作文技能の抽出／作文技能の系統化／作文指導の効率化
基本的作文技能の系統的研究＝全体計画 455
文章の全体構造＝構想力／文章の部分構造＝文章表現力
一時間の授業の組み立てについて 458
目標／題材／学習指導計画／学習内容／評価
綴方と学級づくり
—姫路市立城北小学校藤沢学級の場合—……463
先生こんにちは 463
子どもたちへのよびかけ 465
ニュースを語る／作文や日記を読み合う
活気ある学級めざして 477
学級内手紙／学級クラブ／班活動を活発に
参考文献……486

《執筆分担一覧》

中西　一弘（大阪教育大学教授）Ⅰ章

渡辺　邦彦（兵庫県三田市指導主事）Ⅱ章・Ⅷ章の「読書感想文の指導」

大橋　晴吉（新潟県西頸城郡青海町青海小学校教諭）Ⅲ章「はじめに」から「字数制限作文」まで

小西　良郎（京都市醍醐西小学校教頭）Ⅲ章「えんぴつ対談」以下の全項・Ⅹ章

木村　千佶（奈良県生駒市生駒台小学校教諭）Ⅳ章・Ⅶ章

松川　利幸（大阪府堺市野田小学校教諭）Ⅴ章「題材指導」「主題指導」・Ⅵ章

嶋路　和夫（京都市養正小学校教諭）Ⅴ章「構成・構想指導」「記述指導」

高田　嘉英（神戸市高津橋小学校教諭）Ⅴ章「推敲指導」以下の全項・Ⅷ章全章（ただし「読書感想文の指導」を除く）

工藤　哲彦（大阪府豊中市東泉丘小学校教諭）Ⅸ章全章（ただし「自閉症の児童を指導して」を除く）

植田　和男（兵庫県姫路市城西小学校教諭）Ⅸ章「自閉症の児童を指導して」

田淵　マサ（神戸市摩耶小学校教諭）Ⅺ章

松尾　シヅ（和歌山市城北小学校教諭）Ⅻ章「わが校における作文技能の指導」

藤沢　隆（兵庫県姫路市城北小学校教諭）Ⅻ章「綴方と学級づくり」

作文指導事典

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook